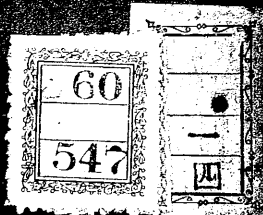


小學修身鑑

平井參編著

卷七

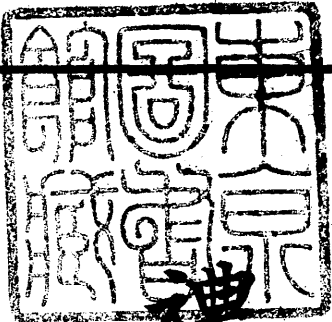
館藏書會百教本日大			
一	一	一	一
八	四	一	九
册	號	架	函



明治十九年十二月廿五日内務省發行

小學修身鑑卷の七

平井參編次



禮義

人の一日もゆるがせみすべからざるもの、禮義なり、いやしくも禮義なけれは、以て君親よつあふべからば、以て朋友よまじとるべからざるなり。

禮記

○凡そ人の人あるゆゑ人の者ハ、禮義なり、

修身鑑

卷之七

平井參編次

左傳

○禮ハ、人の幹なり、禮なぶれば、以て立つ處とあし、

事斯語

○禮をさかんとよし、義をたつとぶものハ、その家治まる、

同

○禮をおろそかよし、義を以やしむ者ハ、その家亂る、

禮記

○人禮阿れば、是なをちやましく、

詩經

禮なければ、則阿やうし、

○人として、禮なぶまきバ、何ぞをみやふ、死せざる、

聖徳太子ノ遺訓

○無道を行ふべからず、非禮を爲すべからず、

習是編

○非禮を以て、人を處すまきバ、賤者と雖正また怨む、

愛敬

翁問答

○苟も二心なく、わが身を捨^テて、君を愛敬するの心を失^ヒて、

○親よ、つかふるの方ハ、愛敬兼ね至り、つとめて、その心よ従ひ、務めて、其志を樂しましむ、

○その親を愛せざして、他人を、

童子習

孝經

愛する、おれを、悌徳といふ、

同

○其親を敬せざして、他人を敬する、之を、悌禮といふ、

薛大滑ノ語

○郷人よ處る、皆まさよ、敬して、而して、おれを、愛すべし、

同

○三尺の童子と雖^モ、また、まさよ、誠心を以て、おれを、愛すべし、侮

夏原益
軒ノ語

慢をべからば、

○愛なまれば、刻薄、敬なまれば、
則、侮慢、

同

○人よ接するの道、温和、慈愛、恭
敬、遜讓、須らく、並び行をれて、偏
ならざるべし、

進徳

易經

○忠信ハ、徳をすゝむる、由ゑん
なり、

初學知
要

○徳を進むるハ、體の立つ、所以
なり、

貝原義
軒ノ語

○學ハ、忠信を以て、主とす、忠れ、

進徳とハ、おのれの徳をさきへすゝま
しむる事となり、徳をすゝむるよハ、忠
信よして、何ぞむかざるをもつて、第一
とす、

徳を進むるの事なり、

訓 大和俗

○學ぶ人ハ、只わが知の昏く、我^ガ徳の進まざる^カを、患ふべし、

道徳

同

○凡そ、人となるものハ、人の道^ヲを、知らざる^カを、悔るべあらば、

同

○人の道^ヲを、知らんと欲せば、聖

同

人の教^ヲを、貴びて、その道^ヲを、まなぶべし、

同

○道學^ヲなまれば、藝^ヲ多くしても、根本^ヲ立たず、君子と^シて、あらば、

同

○技藝^ヲなまれば、事^ヲよ通ぜざして、その徳^ヲの助^ヲなし、野人と^シて、謂ふべし、

唐翼修
ノ人生
必讀書

同

言
省心
操

○徳盛んなるものハ、その心、和
 平なり、人みな交るべきを見る、
 ○徳薄き者ハ、其心、刻傲なり、人
 皆鄙しむべきを見る、
 ○徳餘り有りて、足らざるときは
 ものハ、謙なり、財餘り有りて、足
 らざるとする者ハ、鄙なり、

家
道
訓

○家をよく、多もつと、保たざる
 とハ、夫の徳、不徳のみよ、何らば、
 また、妻の行の、善惡ふよれり、

自信

自信といハ、おのれよ、おのきを信用する
 事となり、いよしへの人もみづら、何
 などりて、人おれをあなどるといへり、
 人ハ、おのれよ、おのきを信ずるの心な
 るれば、以て、世よ立ちがたし、

淮南子

○自ら信するものハ、誹譽を以て遷るべからば、

程子ノ語

○自得せるものハ、守る所ある多
く、自信する者ハ、行ふ所疑をば、

同

○己未だ善ならざれども、人、己れを譽むるも、喜ぶよ、足らず、

同

○己善あらば、人、己れを毀るとも、

怒るよ、足らば、

同

○人、己れを譽むるとも、譽むべきの實あるらしめば、己れがためよ、喜ぶを加ふべからば、

薛文清ノ語

○人、己れを毀るとも、毀るべきの實なからしめば、己が爲めよ、戚を加ふべからず、

如くハなし、謗を息むるふハ、自ら修むるよ、如くハあし、

○自ら治むるよ、急ならバ、何ぞ、外を務むるふ、暇何らん、躬よ反るよ、厚あれば、何ぞ、人を議するふ、暇何らん、

○人よ交りて、而して、人敬信せ

呂東萊ノ語

薛文清ノ語

ざれば、たゞ、まさよ、己よ反求すべし、

○身よ反りて、誠なるハ、最難事たり、身よ反りて、誠なれば、則實よ、これを己よ有す

自防

自防といふは、ふんよふんをふせぐことなり、とふんよふんをふせぐの要

同

いまづつ、わしき人を遠ざくるより、

薛敬軒ノ語

○小人を、ふせぐよ、自ら防ぐ
おとを密よせよ、

同

○顔子の亞聖を以て、聖人猶告
ぐるよ、佞人を遠ざくるおとを
以てす、況んや他人をや、

同

○理明かよ、心正しければ、則邪

轉退之ノ語

媚も、惑をす、おと、能をば、

○孔子曰く、佞人を遠ざかよ、夫
れ、佞人、遠ざくること、能をざれ
ば、則時、わりて、おとを信す、

賢文書

○善人ハ、則おとを、親近して、徳
行を、身心よ、助あ、悪人ハ、則之を、
遠避して、災殃を、眉睫よ、杜あ、

朱子ノ語

○劉元城いへる事とあり子弟
むしる終歳書を讀まざるべし
一日小人よ近づくべあらば此
言極めて味あり

學問

○學ハ覺なり知らざると是る
を覺悟するなり

白虎通

陳眉公ノ語

○人の禽獸草木よ異なる由る
んのものハその爲すと云ふ所
るを以てのみ

賢文書

○學べばすなをち庶人の子も
公卿となる

同

○學むざれば則公卿の子も庶
人と爲る

樂記

○嘉肴有りて雖食もざれば、その旨を知らば、至道有りて雖學もざれば、其善を知らば、

○田阿れども耕さざれば、倉廩空し、書阿れども教へざれば、子孫愚なり、

○高山より升らざれば、天の高を

勸學文

要初學知

知らば、先王の道を聞かざれば、學問の大なるを知らば、

○人食を以て、饑を愈すことを知りて、學を以て、愚を愈すことを知らば、

○藥の病を、をさむることを知りて、學の身を、理むることを知

抱朴子

小學備身錄

卷之七

金瓶梅

小學備身錄

卷之七

十一

帛本

初學訓

らず

○人となりて、いと多き時
ふり、その父兄たる人、其子弟、
書を讀ませ、道を學ぶしむべし、

讀書

讀書といふ、ほんをよむことなり、かくも
んのみちいふんをよむをもつて、第一
といひ、

朱子ノ
語

○書ハ、たゞ、讀むことを貴ぶ、讀
むこと、多ければ、自然よ、さとする、

同

○書を讀むよハ、多きを貪るべ
からば、常よ、自家の力量をして、
餘り何らしめよ、

同

○書ハ、精熟を貴びて、多きを貪
ることを、貴むべし、

程子ノ
語

○凡そ文字を看るよハ、まづ、その文義を、さとり、然して後、その意を、求むべし、

○天下の事、利害、つねよ、相半、全利、ありて、而して、少害なきものハ、たゞ、書のみ、

○呂獻川、嘗て言ふ、讀書ハ、多き

倪文節
ノ語

明陳繼
儒ノ
十六
書ノ
讀
觀

薛文清
ノ語

を須るば、一字を讀み得ば、一字を行ひ取れ、

○外物の味ハ、久し多れば、則、厭ふべし、書を讀むの味ハ、愈、久しく、愈、深ければ、則、厭を知らば、

○一書を、讀み畢ると、雖、書中の意義を、悉く、領略せざるうちハ、

ボツク
ノ
スト
ク
ノ
語

金瓶梅
卷之十

金瓶梅
附編

金瓶梅
卷之十

十四
金瓶梅
附編

決して、他書を、思ふべからば、

氣節

氣節といふ氣象節義あり人のわかきとき
きいたれたるとききの氣象節義なかる
べからば、まてよむいたるときは、また
わかきとききの氣象節義なかるべから
ば

馬様ノ
話

○丈夫の志たる、窮してハ、まさ
よ、まをしく、堅かるべし、老てハ、

ジヨ
ン
ハ
ン
ダ
ノ
語

當よ、益壯なるべし、

○爲しおたき的事よ、遇ふて、志
氣を、沮喪する人の、大業を、成さ
ずと、何多そは、

同

○爲し難きの事よ、克戡せんと、
欲する、志意ある人の、決して、功
績を、何やまつまど、あし、

論語

同

ジヨン
ソノ
ノ

○志士の溝壑よ、ある處とを、あ
まれば、
○勇士ハ、その元を、喪ふ處とを、
忘れず、
○自ら、たすくる處と、何たをざ
るものハ、他人を、助くべきやう
なし、

ソロモ
ン王
ノ

大和俗
訓

董仲舒
ノ
語

勉強

○勤勉を、る人の手ハ、富をつく
りいだす、
○勤ハ、利の本なり、よくつとめ
て、自ら得るハ、眞の利なり、利を、
専ら、貪れむ、かならず、害あり、
○強勉して、學問を、れば、すなま

大學身金 卷之十 金和階藏 十六 帛本開成

董仲舒ノ語

ち、聞見、ひろくして、智、ますく、
ふきらかなり、

○強勉して、道をお志なへば、則すなはち、
徳、日よ、おまはりて、大よ、功、あり、

○懶惰、宴安ハ、鳩毒の伏を所な
り、それ、懐をざるべけんや、

○士となりて、懶なれば、不學無

同

齊家要

術よして、下流となる、みづから、
その身を、毒するなり、

同

○農となりて、懶なれば、稼せば、
穡せば、家よ、貯藏なし、自ら、その
生を、害するなり、

同

○工の藝業、精しからば、商の貿
易、通せざるハ、みま、懶の一念、亦

ソロモ
ン王ノ
語

智是鏡

れを、何やまるなり、

○蟻を觀ずや、夏時よ、糧を、そ家へ、穡時よ、物を、歛めり、彼、智を、師法と、家を、べし、

○男、外よ、勤めても、女、内よ、惰れば、婦事を、さまらざ、その家のお、おらんことを、欲するも、得べし

らび、

儉約

儉約といふ、つゞまやかよ、することなり、
 夫とわがよ、おごる平家の、二代なし、と
 以へることあり、されど、おんやくも、何
 まり、度を、おすべらば、度を、おせ
 だ、おられ、りんし、よくよ、入る、いまし
 むべし、つゝしむべし、

論語

○禮ハ、その奢らんよりハ、むし
 る儉せよ、

論語

○約をもつて、失ふものゝすくなし。

薛文清ノ語

○節儉朴素ハ人の美德なり、奢侈華麗ハ人の大惡なり。

青砥藤綱
錢を滑川
に撈する



家道訓

○儉約なれば財をうしなえどしてよく家をたもつ、儉約ハ財を保ちて、失をざるの道なり。

大和俗訓

○常よ、儉約よして、財のたくをへられば、遽なる變よ、逢ひても、困窮せず。

初學訓

○儉約ハ、わが身の、俸養を軽く

司馬遷
公ノ語

をる、善徳なり、財を惜みて、人よ
施さざるハ、吝嗇といふ、

○古人、儉をもつて、美徳とあし、
今人、儉をもつて、相詬病す、

ジョン
ソノノ
語

○儉約ハ、ひとり、安静の基礎な
るのみならず、また、仁惠の根源
なり、

家語

寡言

○身を終ふるまで、善を爲して、
一言よして、おれを、やぶる、慎ま
ざるべあんや、

朱子ノ
語

○辭達をれむ、をあたむち、やむ、多
言を貴むば、

蘇子瞻
ノ語

○意盡きて、言止むものハ、天下

詩經

の至言なり、
○白圭の玷もたるハ、尚磨ぐべし、
古の言の、玷けたるハをさむべからば、

徐悺長ノ語

○君子ハ、その人よ、何らざれば、
則、其あれを以てせず、

司馬溫公ノ語

○君子ハ、囊括して言をば、小人

尹氏ノ語

の禍を、さく、
○言、時何りて、敢て、盡さず、以て、
禍を、避く、

言志書録

○言語の道ハ、必ずしも、多寡を問をば、
たゞ、時よ中るを要す、然して後、人、その言を厭をば、

誠敬

誠といふまこと、いふまことよて敬といふ、しむといふことなり、誠をければ、人おきを信せ、敬なれば、人おれをいなどる、

慎思録

○道よ志すものハ、須らく、誠敬を以て、その志を、まもるべし、

朱子ノ語

○敬、以て己を持し、恕、以て物よ及ぼせむ、則、私意容る、所なくして、心徳、全し、

薛文清ノ語

○常よ、敬を主とまれば、心を、おち存せ、心存すれば、即、事よ應じて、錯らば、

同

○誠を以て、人を感ずるものハ、人も、また、誠を以て、應む、

同

○詐、を以て、人を御する者ハ、人も、亦、詐、を以て、應ず、

薛文清ノ語

○人の微賤よ於ちあるも皆まさ
よ、誠敬を以ておれを待つべし、
忽慢をべあらば、

程子ノ語

○言行以て人を動ふすよ足ら
ば、事よ臨みて、倦み且怠るハ皆、
誠の至らざるなり、

シヤ
アノ語

○凡そ、汝、外貌よ、顯をさんと欲

するものハ、常よ、必也、中心の誠
より、出づべきを、務むべし、

富貴 貧賤

富貴といふとみと、たつとき、おとよて、貧
賤といふと、まづしきといや、しき、おとなり、
人いどみ且、たつとき位よ居て、いまづ
しく、いやしきものを、おなごるべあら
ば、まづしくして、而して、いやしきとき
ハ、とみて、たつときものを、おなごるべ
あらば、

論語

金和階齋

○富と貴といハ人の欲をるとお
 ろなるとその道を以てせざして、
 おれを得れど處らざるなり、
 ○貧と賤といハ人の惡む所なり、
 其道を以てせずして、之を得れ
 ば去らざるなり、

同

孔子ノ語

○不義よして、富を、且貴きハ、わ

臣軌

れよ於て、浮雲の如し、

○君子ハ、富貴ありと雖養を、も
 つて、身を傷らば、貧賤ありと雖
 利を以て、廉を毀らず、

大和俗訓

○廉潔よして、貧賤なるハ、不義
 ふして、富貴なるよ、まされり、

初學訓

○富きてハ、貧しきものを、忘れ

、其の道、
 二西
 陽
 月
 日
 記

小
學
修
身
鑑
卷
の
七
終

小
學
修
身
鑑
卷
の
七
終

明治十九年七月十日版權免許 定價八錢

編者

東京府士族

平井三郎

本所區本所緑町三丁目十九番地

出版人

東京府平民

鹿島長二

日本橋區箱崎町二丁目十八番地

東京馬喰町二丁目一番地

石川治兵衛

千葉本町壹丁目四番地

石川代理店立真舎

福島縣福島南裏一丁目

石川支店

發行書肆

小學修身鑑

平井參編著

卷八

館書書會育教本日大			
一	一	一	一
八	四	一	九
册	號	架	函

260
547

K120.1
8